

**留学先国名** : アメリカ

**留学先学校名** : Saint Michael's College

**留学期間** : 平成 28 年 8 月 21 日 ~ 平成 29 年 5 月 10 日

アメリカ、バーモント州にある Saint Michael's College での留学は、私が想像していたものとはかけ離れたものでした。当たり前のことですが、環境・言語・文化・食事、私を取り巻く全てのものが全く違うものになりました。あれほど身近にあった日本食や家族の存在が、どれほど私にとって意味を持っていたのか、そして居心地の良い空間であったか身を持って知ることができました。留学に行く以前、一人暮らしの経験などなく、恥ずかしながらご飯・掃除・洗濯など身の回りのことは全て母親にしてもらっていました。家族、友達、日本食や実家など、大切なものは目の前にあったのに、それがどれだけ自分にとって意味を持っていたのか気づくことができませんでした。だから大切なものは失う前に気づきたいと思いました。

しかし手元にないものを嘆いていては、何も成長できません。自分を不慣れな環境に置き、どれだけ新しいことに挑戦できるか、そして必要に応じて助けを求めることが大切です。これを説明するのに、1 学期に履修した Introduction of darkroom photography のクラスと 2 学期の Independent study: advanced darkroom photography についてお話ししたいと思います。私は白黒のフィルムカメラで写真を撮ることに以前から興味があり、前々からやってみたくて思っていました。予備知識なしで、授業を受けたところ、さっぱりわかりませんでした。授業中発言する現地の学生の言っていることもわかりませんでした。授業や課題に関することでわからないことは、必ず教授に聞くようにしていました。Jordan 先生は英語が私の第一言語でないことを理解しており、いつでも快く質問に答えてくれました。いつしか撮った写真を見せに行き、授業内で発表する写真を選ぶ際にこれがいいんじゃないかな? など提案もしてくれました。2 学期に本当は Digital photography というクラスを履修したかったのですが、履修登録する際に定員に達しており、登録することができませんでした。そのことを Jordan 先生に話すと、教授と一対一で自分の授業を作ることができる Independent study を取るのはいかがでしょうかと勧められました。GPA の平均が 3.0 ないと取れないと聞いており、一学期の成績が不安だったのですが無事に登録することができました。この Independent study の final project で、大学内のギャラリーをかりて、小さな展示会をすることにしました。異なる印刷方法やイントロのクラスで学んだこと、または新しく教えてもらったことを応用させながら、15ロール以上撮った中から13枚選び展示しました。ギャラリーに全てをかけ終わった後、感動して涙が出てきました。展示会をすることが夢だったので、ひとつ夢を叶えられてすごく嬉しかったです。Saint Michael's College にある暗室は、私がクリエイティブで積極的に、そして自分自身になれる特別な場所でした。つたない英語ですが教授に質問し、他の学生に話を聞くなど、自分自身の頑張りがあったからこそ、これだけのことを経験させてもらったのだと思います。もしあの時誰にも聞かず自分のわかることだけやっていたら、これほど素晴らしいことを経験できなかったと思います。

プライベートな話になりますが、留学中にセクシュアルハラスメントの被害にあいました。性別に関わらず

誰一人として同じような経験をしてほしくないの、この経験から学んだことをここに書き残しておきたいと思  
います。まず1つ目に、留学先で使用できる電話番号とインターネットの接続を確保しておくことです。大  
抵の大学で無料のwi-fiやパソコンが使えますが、大学の外に行くと現地の携帯会社やSIMカードを持  
っていない限り通信手段が途絶えてしまいます。特に緊急の場合、電話番号を持っておくことが重要です。  
被害に会うまで携帯の番号を持っていなかったため、大学のセキュリティーにその場で連絡することができま  
せんでした。月々の使用料が高くても、インターネットの接続と現地の電話番号を持っておくことをお勧めし  
ます。2つ目に、身体を触ってくるなど性的に嫌なことをしてくる場合、はっきりとNOの意思表示をしなけ  
ればいけません。何かおかしいと感じた時、誰かに相談するなどすぐに行動をとるべきです。前々からおかし  
いと思っていたのですが、セクハラ被害を受けてから友達に相談し、留学先の大学に自分の身に起こっ  
たことを報告しました。それから大学が中立な立場で調査に入り、2ヶ月ほど事実確認に時間がかかりま  
したが、私からの要望を聞いていただきしっかりと対応してもらいました。何かがおかしい、と気づくまで少し  
時間がかかりましたし、助けを求めるために他の人に話すのはすごく勇気がいりました。しかし、現地学生  
の友達に話したところ、大学に報告すべきだと口を揃えて言われました。精神的にこの時期が一番辛かっ  
たのですが、留学先の大学に報告して本当によかったと思っています。

私の留学経験は前述した通り、いい意味でも悪い意味でも私が想像していたものとは全く違うものでし  
た。しかし、状況に応じて周囲の方々の助けを求めつつ、最後まで諦めず留学を終えることができ本当  
によかったです。